

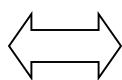
講座コンセプト

脳科学に基づく地域における認知症対策

基本システム

高齢者高次
脳医学講座

PET 脳健診
センター



研究フィールド
宮城県栗原市
大崎市・田尻
登米市・涌谷町

「認知症対策」≒「災害弱者支援」

サブシステム

研究

1. 病態生理学(神経心理学・行動神経学)に基づく包括的介入方法の検討
2. 科学的根拠(エビデンス)に基づく包括的介入方法の検討
3. 介護保険の科学化
4. 災害弱者支援対策

臨床

医療福祉現場における研究会

教育

リーダー養成・スタッフの水準向上

認知症の現況

65歳以上の高齢者
認知症は 8.5%
軽度認知障害(MCI)は30%
15%が毎年、認知症に移行
MCI=災害弱者。

包括的介入

薬物療法
認知障害
行動障害
非薬物療法
心理社会的介入

チーム医療

専門医・リハスタッフ(OT・PT・ST)
臨床心理士・ケアワーカー
看護師・保健師
医療福祉連携=総合リハビリ

高齢者高次脳医学 + 国際共同研究 コンセプト

高齢者高次脳医学と関連する国際共同研究機関

1. 高齢者高次脳医学の国際共同研究先である、ブラジル・サンパウロ大学や台湾・輔仁大学とのさらなる連携が可能
2. 高齢者の生活の質(QOL)や、加齢と認知症の問題を対象にした教育・研究が可能
3. 地域医療の国際比較にもとづくエビデンスの作成が可能

田尻プロジェクト

65歳以上高齢者
認知症の有病率、発症率、神経心理学所見と
画像診断(MRI・PET)、介入効果を検討

サンパウロ調査

65歳以上高齢者移民(宮城県出身)
認知症の有病率、発症率、神経心理学所見
二重言語使用者の認知症の特徴

- 比較結果
- ① 認知症の有病率・発症率は同程度
 - ② 危険因子(特に糖尿病)や抑うつ状態が異なる
 - ③ 神経心理学所見(漢字・仮名の書字)は異なる

栗原プロジェクト

75歳以上高齢者対象
認知症の有病率と介護保険指標の関係、
介入効果を検討

台湾・泰山プロジェクト

75歳以上高齢者対象(日本語使用者)
認知症の有病率と神経心理学所見を検討
二重言語使用者の認知症の特徴

- 予想結果
- ① 台湾における認知症の有病率調査
 - ② アジアにおける介護保険の普及
 - ③ 二重言語使用者の認知症の特徴